

平成23年度 三重大学個別学力検査

# 問題訂正

9時30分開始 [ 前期日程 数学② ]

科目：数学②

問題訂正 (1個所)

2ページ 4 (2)

(誤) 閉区間  $[0, \frac{\pi}{2}]$  における …

(正) 閉区間  $[0, \sqrt{\frac{\pi}{2}}]$  における …

# 平成 23 年度学力検査問題

医学部・前期日程

## 数 学

②  $\left( \begin{array}{l} \text{数 学 I} \\ \text{数 学 II} \\ \text{数 学 III} \\ \text{数 学 A} \\ \text{数 学 B} \\ \text{数 学 C} \end{array} \right)$

問 題	ページ 1	ページ 2
解答用紙枚数	2 枚	
解 答 時 間	2 時間	

---

### 注 意 事 項

---

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 本冊子のページ数は上記のとおりである。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがある場合は申し出ること。
3. 解答用紙 2 枚の指定された欄 2 箇所(計 4 箇所)に、忘れずに本学の受験番号を記入すること。
4. 解答は、すべて別紙解答用紙のそれぞれの解答欄に記入すること。
5. 配布された問題冊子は、試験終了後持ち帰ること。
6. この問題冊子の空白部は、草稿用紙として使用してよい。

**1**

次のふたつの方程式を考える。

$$x^2 + y^2 = z^2 \quad \dots \textcircled{1}$$

$$s^2 + t^2 = u^2 + 1 \quad \dots \textcircled{2}$$

- (1) 実数  $a, b$  に対し実数  $a^*, b^*$  を  $a^* = a + b, b^* = 2a + b + 1$  で定める。  
 $(x, y, z) = (a, a + 1, b)$  が  $\textcircled{1}$  の解ならば  $(s, t, u) = (a^*, a^* + 1, b^*)$  は  $\textcircled{2}$  の解であることを示せ。また、逆に  $(s, t, u) = (a, a + 1, b)$  が  $\textcircled{2}$  の解ならば  $(x, y, z) = (a^*, a^* + 1, b^*)$  は  $\textcircled{1}$  の解であることを示せ。
- (2) 方程式  $\textcircled{1}$  の自然数解  $(x, y, z)$  をピタゴラス数という。 $y = x + 1$  を満たすピタゴラス数を 3 組あげよ。

**2**

$c$  を定数として数列  $\{a_n\}$  を次の条件によって定める。

$$a_1 = c + 1, \quad a_{n+1} = \frac{n}{n+1}a_n + 1 \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

- (1)  $a_2, a_3, a_4$  を求めよ。また一般項  $a_n$  の形を推定し、その推定が正しいことを証明せよ。
- (2)  $c = 324$  のとき、 $a_n$  の値が自然数となるような  $n$  をすべて求めよ。

3  $t$  を実数として 2 次正方行列  $A_t = \begin{pmatrix} 1 & -t \\ t & 1 \end{pmatrix}$  を考える。

(1) すべての実数  $t$  に対し  $A_t$  が逆行列を持つことを示し、その逆行列  $A_t^{-1}$  を求めよ。

(2) 各実数  $t$  に対し座標平面上の点  $(x_t, y_t)$  を条件  $\begin{pmatrix} x_t \\ y_t \end{pmatrix} = A_t^{-1} \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$  によって定める。 $t$  がすべての実数を動くとき  $(x_t, y_t)$  が描く図形を求めて図示せよ。

4 関数  $f(x) = -\frac{1}{2x} + \tan x$ ,  $g(x) = x \cos(x^2)$  について以下の問いに答えよ。

(1)  $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$  の範囲にある  $\alpha$  で  $f(\alpha) = 0$  となるものがただひとつ存在することを示せ。

(2) 閉区間  $[0, \frac{\pi}{2}]$  における  $g(x)$  の増減表を書け。必要ならば(1)の  $\alpha$  を用いてよい。

(3)  $0 < \beta < \sqrt{\frac{\pi}{2}}$  の範囲にあり  $g'(\beta) = 0$  を満たす  $\beta$  を(1)の  $\alpha$  を用いて表せ。また  $g(x) = x \cos(x^2)$  ( $0 \leq x \leq \beta$ ) の逆関数を  $h(x)$  とする。このとき  $y = g(x)$  のグラフと  $y = h(x)$  のグラフの関係に注意して、定積分  $\int_0^{g(\beta)} h(x) dx$  を  $\alpha$  を用いて表せ。